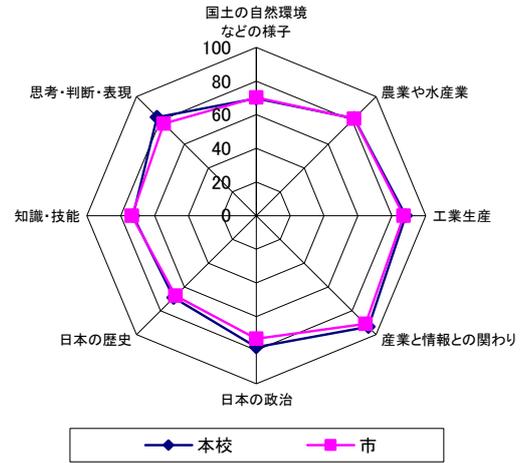


宇都宮市立桜小学校 第6学年【社会】領域別／観点別正答率

★本年度の市と本校の状況

		本年度		
		本校	市	参考値
領域別	国土の自然環境などの様子	69.7	70.3	66.4
	農業や水産業	81.7	81.6	75.3
	工業生産	88.2	87.0	77.7
	産業と情報との関わり	93.5	91.0	81.3
	日本の政治	78.2	73.2	75.3
観点別	日本の歴史	69.0	67.4	68.5
	知識・技能	72.8	73.5	72.5
	思考・判断・表現	82.8	77.3	71.5

※参考値は、他自治体において同じ設問による調査を実施した際の正答率。



★指導の工夫と改善

領域	本年度の状況	今後の指導の重点
国土の自然環境などの様子	○日本の周辺の海洋名についての問題では、市の平均正答率よりも高い。 ●人工林の役割についての問題では、市の平均正答率より低い。	○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの ・引き続き、日本国内の様子について、日々のニュースなどに関連付けながら興味をもたせ、学習に臨むことができるようにする。また、自分たちの生活は、自然や環境の影響を受け入れ工夫して生活をしていることを考えられるよう、学習の振り返りの時間を大切に扱う。
農業や水産業	○米の品種改良の工程についての問題では、資料を読み記述する問題で、市の平均正答率より高い。 ●米の収穫量が多い都道府県の地図から地方名を選択する問題では、市の平均正答率より低い。	・今後も資料の読み取りをする際に視点をしっかりと押さえる。4年生の学習内容の都道府県名や地方の名前については、機会を捉え意図的に課題に取り組めるようにして、基礎基本の定着を図っていく。
工業生産	○自動車の製造工程についての問題と安全性の高い自動車作りについての問題では、どちらも市の平均正答率より高い。 ●貿易の変化について資料を基に表現する記述問題では、市の平均正答率より低い。	・グラフから「増えている・減っている」の読み取りはできて、後述の文章を理解し、内容に合うように記述することに課題が見られた。引き続き、日本の工業生産全体についてさらに理解を深めることができるように、自身の生活と関連付けながら学習していけるようにする。グラフの読み取りをする際にその背景まで類推できる力を育てられるよう、今後も自分の考えや友達の考えを読み合う活動を取り入れていく。
産業と情報との関わり	○情報の発信と受信の注意点についての問題では、市の平均正答率よりも高い。 ○情報を生かした産業についての設問では、市の平均正答率とほぼ同じである。	・自分たちの生活は情報と関わり合って便利に生活しているが、活用については、他教科とも関連付けて振り返らせながら、より安全性等の知識や理解を深めていく。
日本の政治	○日本国憲法についての理解と法律ができるまでの流れの問題、租税の役割についての問題では、市の平均正答率より高い。 ●日本国憲法の三原則を問う問題では、市の平均正答率より低い。	・記述式で後述の文章まで読まないで回答できない問題に課題がある。日本の政治について、時事問題を話題に用いて興味をもたせながら、復習するようになる。
日本の歴史	○弥生時代、鎌倉幕府の政治の仕組みの理解、安土桃山時代、江戸時代の理解を問う問題では、どれも市の平均正答率より高い。 ●平安時代の文字、室町時代の能についての理解を問う問題では、市の平均正答率より低い。	・誰が何を行ったかの理解はよくできているので、どのような文化が伝わり盛んになったのかを中心に正答率の低かった問題について、その時代に関する内容を復習するようになる。